

具体的対応方針の再検証（案）

地域	病 院 名	H29. 7. 1						R7. 7. 1						(参考) コロナ 病床 R3. 12 現在	再検証の内容（H29. 7時点からR7までの対応）					病院側の考え  【病院プロフィールシートを参考に、病床（規模等）及び医 療機能（主に再検証の観点）について記述】	県の考え （再検証の確認結果と求められる医療機能等）  【平成２８年度調整会議資料なども参考に整理】
		合 計	高度 急性 期	急 性 期	回 復 期	慢 性 期	休 棟 中	合 計	高度 急性 期	急 性 期	回 復 期	慢 性 期	休 棟 中		再編、 統合	減床	転換	調整中	見直し なし		
津 軽	弘前大学医学部 附属病院	597	597					597	477	120				9					○	病 床：規模維持（高度急性期の一部を急性期に 変更） 医療機能：救急の領域やへき地医療支援の領域も 引き続き担う	・再検証として、「見直しなし」は妥当  ・大学として教育、研究、医師派遣等の機能を引き続 き担う
	国立病院機構弘 前病院	342		342				442		442				21	○	急100				病 床：増床（再編・統合） 医療機能：新中核病院として、心疾患、救急、小児 、災害の領域も引き続き担う 脳卒中、へき地の領域については、連携等 により対応	・再検証として、再編・統合による医療機能集約は妥 当  ・新中核病院整備後は、引き続き二次救急、高度医 療、若手医師の育成等の役割を担う
	弘前市立病院	250		214	36			0						4	○	急▲214 回▲36				令和３年度末で廃止	
	黒石病院	257		257				257		227	30			2		急▲30→回				病 床：規模維持、転換（今後） 医療機能：がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周 産期の領域も引き続き担う。	・再検証として、「転換」は妥当  ・病床規模の見直し及び回復期機能への転換等につい て引き続き検討
	板柳中央病院	87		55		32		80			48	32				急▲7	急▲48→回			病 床：減床、転換 医療機能：救急、研修・派遣の領域も引き続き担う	・再検証として、「減床・転換」は妥当  ・更なる病床規模の見直し及び回復期機能への転換、 コロナ対応等について引き続き検討
	大鰐病院	60		60				19			19					急▲41	急▲19→回			病 床：診療所（Ｒ５．１月開業予定）として縮小 （減床、転換） 医療機能：がん、心疾患、救急の領域を縮小 脳卒中の領域は、廃止	・再検証として、「減床・転換」し、有床診療所とす ることは妥当  ・診療所として地域に必要な機能を担う

注 黒字は実施済み又は実施中、赤字は今後実施

参考）高度急性期機能及び急性期機能の病床を有する民間病院

弘前中央病院（174床）、鳴海病院（116床）、弘前記念病院（171床）、健生病院（282床）、ときわ会病院（149床）、脳卒中・リハビリテーションセンター（248床）